

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「年賀状は“スマホ配達”の時代へ」
- 2) 「近大マグロ、晴れて銀座に 専門料理店12月オープン」
- 3) 「ウエディング、時期に合ったベストな野菜2人で育て披露宴の料理に」

1) 「年賀状は“スマホ配達”の時代へ」

パソコンやインターネットを利用した年賀状サービスが増えるなか、ヤフーやミクシィ子会社などが日本郵便と協力して、スマートフォンで撮影した写真を年賀状に簡単に取り込めるアプリなどの提供を始め、人気を集めている。今年の師走は急速に普及するスマホに対応した年賀状サービスが注目されそう。

ヤフーが博報堂アイ・スタジオと共同で今月1日に提供を開始したアプリ「スマホで年賀状」は、500種類以上の年賀状のデザインを用意した。利便性が高く、送り先の住所を入力しておけば、あて名まで印刷し、日本郵便が届けてくれる。このため年賀状を購入することも、ポストに入れる手間も不要。料金は1枚につき78円。通常50円の年賀はがき代を含めても128円で、手ごろな価格ともいえる。

年賀状を受け取った人がDVDやCDを1本無料でレンタルできたり、内蔵ICチップをかざして専用の自販機でコカ・コーラを受け取れる特典付き年賀状も提供する。スマホで撮った写真を使い年賀状を作成するサービスは、インプレスジャパンやリクルートホールディングスなど各社が相次いで提供。利用者にとって、デザインなど選択の幅が広がっている。年賀状取扱量の減少傾向に歯止めをかけたい日本郵便も「時代の流れに沿って対応した」とスマホ利用層の獲得に期待を寄せる。

余白にコメントを自分で書きたいという人には、ミクシィ子会社のノハナが提供する「ノハナ年賀状」が最適だ。アプリを起動してスマホで撮影した写真の中から使いたい1枚を選び、好みのレイアウトを選択。そのままスマホ画面から注文すると1週間ほどで完成した年賀状が自宅に届く。料金は年賀はがき代を含めて1枚88円。これに1480円の基本料金と送料525円が別途かかる。

総務省によると、スマホの世帯普及率は2012年に49.5%となり、前年比約20ポイント増と急伸。ノハナ関係者は「スマホの中に今年のベストショットがある人が多いのでは」と話す。携帯電話の年末商戦が本番を迎え、スマホ利用者がぐんと伸びそうなか、来年の元旦に届く年賀状は“スマホから配達”が増えそう。

電車や、公共の場で周りを見渡すと、スマホの利用者は本当に増えていると実感する。そのスマホがカメラ代わりに、日々のちょっとしたモノやコトを撮影している人も多いはず。家にプリンターが無い人や、年賀状を購入してデザインを考えて印刷と言った工程を面倒だと思う人でも携帯の画面でサクサクと注文出来るならあまり手間には感じないと思う。このアプリを使ったことは無いが、途中で保存する機能が付いているなら移動中などの少し空いた時間を利用して出先でも作れると言う事は大きい。新年のあいさつを気軽に出来るようになるのは良いことだと思った。

2) 「近大マグロ、晴れて銀座に 専門料理店12月オープン」

近畿大学が世界で初めて完全養殖に成功したクロマグロ「近大マグロ」などを味わえる養殖魚専門料理店が、12月4日に東京・銀座にオープンする。近大の水産研究の成果を前面に出したメニューなどが今月29日、報道陣にお披露目された。

新店舗は、JR大阪駅北側「グランフロント大阪」に今春開店した「近畿大学水産研究所」の2号店。同大が育てたブリやカンパチなどの養殖魚6-20種類や、研究施設がある和歌山県の食材や酒がメニューの中心となる。近大マグロは去年の生産量が40トンと少なく、常時食べられる店舗は都内ではここだけという。各テーブルのタブレット端末では、その日に提供されたマグロの、「入学日」（卵がふ化した日）や「学び舎」（養殖場）、「給食」（与えたえさ）など生育歴が分かる「卒業証書」を見ることができると予定だ。

以前取り上げた、近代マグロが東京にもオープンする。大学が養殖した魚と言うのは、それだけでも話題になりそうだが「こんな面白い事をやっている大学があるのか」と、関東への知名度向上のアピールとしても良さそうだ。年内の予約はほぼ埋まっているということなので、多くの方が興味を持ってきているのだろう。近大の養殖魚のこれからにますます注目したい。

3) 「ウエディング、時期に合ったベストな野菜2人で育て披露宴の料理に」

東京・秋葉原と茨城・つくばを結ぶ高速鉄道、つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅から徒歩1分にある「オークビレッジ柏の葉」。

「農と食の融合」をコンセプトに、貸農園のオークファームのほか、レストランやパーティールームなどの施設を併設している。このオークビレッジ柏の葉オークファームは、結婚式を挙げるができる農園としても知られる。

子供の職業・社会体験施設「キッズニア」のKCJ GROUP（東京）が運営。総面積は1万平方メートルで、このうちオークファームは約6000平方メートルに及び。農園は個人区画や法人区画に加えて、「ウエディング区画」を備えているのが大きな特徴だ。

個人用は1区画10平方メートルが毎月1万5750円で利用できる。有機栽培が基本で、利用料には苗や種代、資材、農具使用料、さらには毎月2回、週末に開く有機栽培講座受講料などが含まれる。クラブハウスも完備し、更衣室やロッカー、シャワールームも無料で利用できる。

農園では、有機栽培に詳しいインストラクターが指導するため、初心者でも安心して野菜づくりを体験することができる。取れすぎた野菜は、併設のレストランに持ち込めば食事券と交換できるのも、この農園ならではのサービスといえる。

ウエディング区画は、同施設で結婚式を計画しているカップルのためのものだ。「予約された結婚式までの期間を有効活用していただくのが狙いです。時期に合ったベストな野菜を選定して収穫していただき、披露宴の料理に使用します」と農園部部長の奥村邦彦さん。

1区画12平方メートルで、全部で24区画ある。土を耕し元肥を入れ、畝（うね）を立てて種まきや苗の植え付けから始めることも可能だ。「どれだけ農作業に関わりたいか。2人の要望に合わせて対応しています」（奥村さん）。

披露宴では、2人が育て収穫した野菜の料理についてシェフが紹介する。農作業をしている様子を放映するケースもあり、同施設でのファームウエディングは好評。新しい結婚式のスタイルとしても定着しつつある。オークファームの利用者は、つくばエクスプレスの沿線住民が多いが、中には東京都足立区、墨田区、江東区在住者もいる。ファームウエディングはすでに50組を超えているという。

都会で気軽に農業を行うことができる場所が増え、そのサービス内容も豊富になっているのが伺える。レストランに持ち込んで食事券に変えられると聞けば「おトク」だと思うし、結婚式までに野菜を育てるとなれば、2人の絆が高まるのは間違いないだろう。一緒に育ててきたことを式当日にストーリーとして紹介するとなればとても温かい雰囲気になりそうだ。育てて食べる、だけでない楽しみ方が今後どのように増えていくか楽しみにしたい。